成願寺

季報

128

令和3年6月18日
(2021年)

目次

「羅漢さまの功徳③」大谷哲夫……1
中野区立みなみの小三年生、社会科見学感想文紹介……5
中野たから幼稚園「たから生活発表会」の報告……6
山内短信……8

発行　多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作　地人館

連載

羅漢さまの功徳③

新宿区長泰寺 住職・元駒澤大学 総長　大谷哲夫

羅漢の日本への伝来と展開

十六羅漢像の日本への移入は、古くは平安時代の永延元（九八七）年に東大寺の僧奝然（ちょうねん）（九三八～一〇一六）が宋から釈迦像や一切経とともに招来し清涼寺に現存している。

その他、日本に現存する十六羅漢像は、国宝「十六羅漢像」（清涼寺所蔵）を筆頭に、国宝「十六羅漢像（旧聖衆来迎寺所蔵）」（東京国立博物館所蔵）、「十六羅漢像」（宮内庁所蔵）、重文「十六羅漢像」（称名寺所蔵）などが知られている。

また、十三世紀の初めには、入宋僧の重源（ちょうげん）（一一二一～一二〇六）が高野新別所に十六羅漢図を施入したり、俊芿（しゅんじょう）（一一六六～一二二七）は宋からの帰国（一二一一）に際して十八羅漢図を船載していることなどを勘案すると中国からの移入が如何に多かったかがしのばれる。

ところで、日本において羅漢の信仰が記録の上に

盂蘭盆先祖まつり（おせがき）のお知らせ

七月十一日（日）朝十時半受付開始
十一時半　開山・歴住諸大和尚報恩供養
　　引き続き、鈴木格禅先生二十三回忌
十三時　説教　鶴見大学准教授　鈴木一馨　師
十四時　先祖まつり法要・檀信徒総回向
＊例年檀信徒各家にて行っている棚経はコロナ対応のため休止。但し新盆のお宅へはお伺いします。

＊ご来山の際は体調を考慮の上、マスク着用、手洗い、咳エチケットなどにご協力いただき、感染症対策にお努めくださいますようお願い申し上げます。
＊ご案内の行事は状況によっては変更または中止になる場合がございます。当山ホームページにてご確認いただくか、寺務所までお問い合わせください。

はっきりと知られるのは裔然の帰国以後しばらくたってのことで、室町時代以降になると羅漢信仰が確実に広まりを見せると言われている。

十三世紀の半ば近くになり、叢林（仏道修行道場）を中心として羅漢の徳を讃仰し供養する羅漢講式が修されるようになると、宋元画（北宋・南宋および元代の絵画）を基本的に踏襲した多くの羅漢図の制作が促進された。因みに、羅漢に対する供養の根拠は前号で詳述した『法住記』である。早くは『小右記』に記載された藤原道長（九六六～一〇二七）の羅漢供（寛仁三年〈一〇一九〉）や『吾妻鏡』に記載されている北条政子（一一五六～一二二五）が行ったとされる十六羅漢像開眼供養（正治二年〈一二〇〇〉）などが知られている。

ところで、道元禅師（一二〇〇～一二五三）が十六羅漢とその眷属と一切の賢聖を供養するいわゆる羅漢講式を勤修したのは宝治三年（一二四九）一月一日の巳午（午前九時～午後一時）永平寺の方丈でのことである。

その『羅漢供養式文』には、第一に羅漢の住処を明かし、第二に羅漢供養興隆の利益を明かし、第三に福田の利益を明かし、第四に除災の利益を讃じ、第五に世尊の舎利に供養することが記されている。

道元禅師が始めた羅漢講式は、太祖と呼ばれる道元禅師の第四代の法孫瑩山禅師に確実に受け継がれている。すなわち、瑩山禅師の本拠である永光寺は第八羅漢の伐闍羅弗多羅尊者の夢告によったことが『洞谷記』に見え、文保二（一三一八）年の項に「羅漢供を始む。而して毎月十五日これを供養す。尊者の望みなり」とあるように、毎月の十五日には羅漢供養が行われ、年中行事となったことがしのばれる。そのように、以後絶えることなく続けられ、現在に至っている。

羅漢の造形

羅漢の典型的な図像あるいはその彫像に見られる造形は、剃髪し袈裟を着けた僧形に代表されて表現される。が、しかし、十六羅漢の最も基礎となる『法住記』は、先述したように十六羅漢の活躍の場所やその眷属の数やその功徳については明らかにするが、それぞれの羅漢の経歴や所業については具体的には説かれていない。その為であるのか、十六羅漢一人一人の図像は、時代とともに変容し、作者それぞれの信仰の基づくところあるいはそれぞれの尊者への

思い入れなどが混在していくこととなる。
その表現形式は、画面構成の厳密で精緻なもの、雑なもの、その描くところは、円満な高僧、胡貌や梵僧に近い老僧、沈着な聖者風、山居して禽獣と遊ぶもの、経巻を読むもの、岩窟に参禅するもの、虎を愛撫し龍を呼び出す神通力を現すもの、そしてその侍者たちも官人、軍人、道士、児女、禽獣などが配置されるなど極めて多様である。

成願寺の十六羅漢

成願寺の山門をくぐると、何とも優しい慈愛あふれる羅漢たちが出迎えてくれる。羅漢は衆生済度をするために、極めて厳しい仏道修行をされている。そのため、その表情は厳しく、我々を寄せ付けない、何か異様な厳しい雰囲気を印象づける。が、成願寺の十六羅漢は、一人一人が優しい。そして、我々一人一人に微笑み語りかけてくれる。
成願寺の羅漢たちは、何故、このように優しいのか。
それは、ほぼ三十年前のこと。方丈さまが、伊東の林泉寺さまにお参りされた時、素晴らしい十六羅漢群に出会い、それに感動し、しばし立ちすくみ、その石像たちに対峙したという。そして、それを彫刻した沼津の、静岡では名の通った名石工と言われる方に感動を伝え、皆さまと心の交流のできる優しさのあふれる十六羅漢の制作を依頼し、成願寺の境内に安置された。方丈さまの、お参りをされる皆さまが、いつでもにこやかであることを祈念する念願がこめられている。一人一人の羅漢と向き合ってみると、己の心が洗われるような清々しさを懐くのは、そのためである。
どうぞ一人一人の羅漢さまと、心から向き合ってみてください。以下に、皆さまが十六羅漢をお参りする時の参考のために、現代にまで伝えられている一人一人の背景やその行状などを紹介する。

十六羅漢尊者の様態

第一尊者　賓度盧跋羅惰闍

この尊者は、釈尊の直弟子の一人とされ、『雑阿含経』は、釈尊に「常に世にあって、真実の仏教を護持せよ」と命じられた、四人のうちの一

人と伝える。「十六羅漢」のうち、この第一尊者のみは、末法の人のために斎会を設け食事などを供養した故事に因み、諸寺では食堂に安置したり、また、病気のものがこの尊者をさすると平癒するとの俗信から外陣に安置もされた。日本ではいわゆる「おびんずるさま」として信仰されている。弟子の阿羅漢千人と西瞿陀尼州に住む。

第二尊者　迦諾迦伐蹉

第三尊者　迦諾迦跋釐惰闍

第四尊者　蘇頻陀

第二尊者　迦諾迦伐蹉

この尊者は、『阿羅漢具徳経』では、仏法と正法護持に極めて強い因縁があったと伝えられるように、仏法を誹謗するものに対しては、手にした杖や如意の一振りで即座に振り払うという。弟子の阿羅漢五百人とインドの北方の迦湿弥羅国に住む。

第三尊者　迦諾迦跋釐惰闍

この尊者は、身の丈二メートル以上、眼光鋭い偉丈夫で、あらゆる話題に通ずる非常な話好きだという。弟子の阿羅漢六百人とヒマラヤの東方、東勝身州に住む。

第四尊者　蘇頻陀

この尊者は、その鋭い眼光で人間のした理不尽な行為に対して自然に代わって制裁を下すのだという。今日、地球上の人間が自分たちの都合だけで勝手に自然環境を破壊していることに対し、最も腹を立て、いつか人間共に鉄槌を下してやろうと最も真剣に考えているのはこの尊者かも知れない。

弟子の阿羅漢七百人とヒマラヤの北方、北倶盧州に住む。

（以下次号）

この稿は「十六羅漢の様相」（大谷哲夫編著）を成願寺季報向けに加筆・再編したものです。

中野区立みなみの小三年生、社会科見学感想文紹介

一月二十二日（金）社会科見学に訪れたみなみの小の児童より手紙が届きました。抜粋して紹介します。

＊防空ごうに行った時、すごい暗くてこわいなと思いました。とくに電気を消した時、体がふるえました。「受身、受心」という言葉や「我知る」という言葉を教えていただいてありがとうございました。

＊いつもの年よりもせんそうがあると四倍も死んでしまった人がいると聞いてびっくりしました。

＊防空ごうを見て昔の人は「こんな暗い所で身を守っていたんだな」と思いました。昔の話を聞いて、せんそうをやっていた時は、ひこうきとひこうきではさみうちにされたりしたと聞いて大変だったんだと分かりました。

＊防空ごうに入ってこわいなと思いました。ぼくだんがおちてくると思うと、もっと怖くなりました。

＊昔の話を聞いて、どうしてせんそうを起こしてしまったんだろうと思いました。

＊「今もしせんそうが始まったらどうしよう」と思っていました。それでむかしの事も知りたいと思って色々調べていたら、くわしいお話がきけたのでありがたかったです。

＊「天知る、地知る、我知る」をおしえていただきありがとうございました。

＊防空ごうに入って電気を消したらまっくらでこわかったです。

＊昔の話を聞いてせんそうはたいへんなんだなと思ったし、もっとむかしのことを知りたいと思いました。

＊今平和なのはたたかってくださった人のおかげなんだなと分かりました。

＊戦争の時にたくさんの人が亡くなっていた事が悲しいと思いました。

＊昔の話を聞いて、「本当にせんそうはこわいな」と思いました。

＊防空ごうの電気を消したらまわりの友だちが見えなくなりました。「やっぱりせんそうはこわいな」と思いました。

＊せんそうの時、しょくりょうがなくて亡くなった人がたくさんいたのでかわいそうだとおもいました。

＊中野区にぼく場があったと知らなかったです。

＊せんそうでなくなった人や食べる物がなくてなくなった人がいるお話をよくおぼえておきます。

中野たから幼稚園「たから生活発表会」の報告

昨十一月二十六日（木）、二十七日の二日間にわたり「たから生活発表会」が地下ホールで行われました。

「普段、楽しんでいる遊びを見ていただく」ことに主眼をおいた年少組の発表は「おおきなかぶとちいさなかぶ」。かわいいねずみと大きなくまが畑にかぶを植えたお話です。「ねずみさんがころんだ！」の遊びでねずみたちが登場すると、かわいいお顔や悲しいお顔、怒ったお顔で「はい、ポーズ」。畑に植えた小さなかぶの収穫は女の子ねずみと男の子ねずみに分かれて、時間内にどれだけ採れるかかぶ抜きゲームのスタートです。くまが植えた大きなかぶの収穫は明日にして「おやすみなさい……」。

「おおきなかぶとちいさなかぶ」（つぼみ組）
手作りのねずみのお面を付けた子どもたち。たから生活発表会は、衣装は身近なものを工夫して使用し、子どもたちの表現を大切にしています。

「起きよう、起きよう、今日もかわいいねずみさん！」と先生から声がかかると「はーい」と元気いっぱいにお目覚め。スポーツデーでの年長さんの「ソーラン節」に憧れているねずみたち。今日は自分たちの「ソーラン節」をご父母にお披露目しました。最後に、くまが植えた大きなかぶを抜くのに力を合わせて「うんとこしょ！　どっこいしょ！」。大きなかぶが無事に抜けて年少組の発表を終えました。

役決め、台詞、大道具の作成など、クラスで一つのものを作り上げる楽しさを学び、力を合わせて準備をしてきた年中組の発表は「忍術発表の巻」。子どもたちは普段から忍者になりきって、この日の発表に挑みました。

「忍術発表の巻」（わかば組）

「実はこのクラスの子どもたち、忍者なんです」と、最初に先生から重大発表が。さっそく「忍法隠れ身の術」を披露した年中組忍者さん。発表を見守るのさまにお参りすると、何やらあやしげな巻物が。そこには、「たくさん練習してきた年中さんだからきっとうまく

いく。今日の修業は、『一、忍法変身手裏剣よけの術』『二、忍法くぐりの術』『三、忍法けむりの術』と、ののさまからのメッセージが書かれていました。

先生のピアノの音に合わせて、「忍法変身手裏剣よけの術」を元気いっぱいに披露。さらに「忍法くぐりの術」では見事に大縄をくぐって難を逃れました。「忍法けむりの術」では上手に身を隠すことに大成功。するとののさまのお厨子の中に今度は「よくがんばった！」の巻物が。子どもたちには忍者の証として手裏剣のバッジが渡されました。最後にご父母からのサプライズも成功し、年中組の発表を終えました。

年長組の発表は、小さくて泳ぎの早いお魚「スイミー」の物語。スイミーが旅の途中で出会ういろいろな海の生き物をさまざまに表現します。また、ナレーション、舞台を盛り上げる効果音も子どもたちが知恵を出し合って行いました。

ナレーター役の子どもたちが「その名はスイミー」と発表のはじまりを告げると、まずは元気いっぱいに合唱を披露。スイミーはきょうだいたちと遊んでいます。そこへマグロがお腹をすかせてやってきて、きょうだいたちをひと飲みに。きょうだいの誰よりも泳ぎが得意なスイミーは、逃げることができたものの、ひとりぼっちになってしまいました。すると

「スイミー」（ことり１組）

ダンスの大好きな虹色クラゲが登場。スイミーと一緒に遊ぶことになってダンスと大縄飛び、マット運動に挑戦しました。次に登場したのは楽器が大好きな水色と紫とピンクのお魚。ハンドベルで「ちょうちょう」、「むすんでひらいて」を演奏してスイミーに聞かせてくれました。音楽を楽しんだあとにスイミーが向かった先で見つけたのはきょうだいたちと同じ赤いお魚たち。でも大きな魚を恐れて岩陰から出てきません。そこでスイミーは、みんなで大きな魚のフリをしようと提案。子どもたちが手形を押してウロコを表現した大きな魚になりました。

後日ご父母より、「個人個人の持ち味が自然に引き出されていた。構成もご指導も見事でした。」「ご準備、当日の運営も素晴らしく安心して観劇できました。」などの感想をいただきました。

山内短信

◎百観音の縁日祈禱

理趣経の功徳を授ける住職

毎月十八日は観音さまの縁日です。圓通閣にて参加者一同で観音経の一部を唱和。午後二時よりご祈禱が厳修されます。どなたでもご参列いただけます。

ご祈禱の後は四阿で、ゆっくりしてください。

◎本堂前の大銀杏の手入れの報告

当山境内には何本か銀杏の木があります。銀杏は水分が多くて火に強いため、木造建築であるお寺に好んで植えられる樹木です。昨年末、植木屋さんに依頼して、大型の高所作業車二台を用いて、伸びた枝を切り揃える手入れをしてもらいました。

◎長者閣脇の工事の報告

盂蘭盆会や彼岸会など主に年中行事の際にご利用いただいている長者閣脇の門。足元が崩れかけていたのを、イペというウッドデッキなどに使用される高耐久の木材で補修しました。消防ポンプ車も通行できます。

◎山手通り沿いの竹垣工事の報告

山手通りに面する竹垣の改修工事が四月一日から二ヶ月にわたり行われました。五年に一度の割合で改修工事をしています。

まずは竹をきれいに洗浄

工事の様子